

「幸せは比べられるか？」

2014年10月18日(土)
 会場：Alba Cafe (外苑前)
 参加：11名
 司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・総勢11名で、過去テーマである「幸せは比べられるか？」を問いとして、対話し考えた。

2. 対話：

(0) テーマについて

- ・過去のテーマリクエストに応える第一弾として、2周年の記念例会で行った「幸せは比べられるか？」を取り上げた。過去の同テーマのときの議事録を途中で振り返り、紹介した。

(1) 「比べる」とは？

- ・幸せそのものを「比べる」ことは不可能である。一方で、他者との比較では、保有する金銭(=資産)を比べることはできる。この金銭が幸せにつながるのか？
- ・幸せの基準がどこかにあるはずであるが、やはり最終的な結論としては無理(=不可能)であるように思う。なぜかと言えば、次のケースを考えると分かる。アフリカの奥地を想像する。電気・水道はない。では彼等は不幸せか。インフラを整備してあげれば幸せになるのか。そうではない。

(2) 「幸せ」には種類がある？

- ・幸せには二つの概念があるのではないか。一つは、ポジティブな感情による幸せ。もう一つは、社会的評価軸としての幸せ。元来これらは別物なのではないか。
- ・ときに、社会的評価軸としての幸せはポジティブな感情をもたらし、それが幸せに繋がることもある。だから、社会的評価軸としての幸せがポジティブな感情による幸せに還元されることがある。例えば、宝くじが当たると社会的な評価軸が上がり、周りから羨ましく思われ、それが自分にとって嬉しい感情をもたらし、幸せになる。だが、この幸せは、そのうち薄れていく。幸せは長く続かないのか。

(3) 金銭について～宝くじに当たったら？

- ・一億円が当たったら、使い道を決めないという強迫観念に襲われ、そのため不幸になる。
- ・いや。一億円を持っているだけで幸せ。生きていく上での最低線は確保できると思えるので、「何か突発的に不幸な出来事があっても大丈夫」という安心感を得られ、幸せである。
- ・どう考えても、ないよりはそう(=幸せ)である。

(4) 「幸せ」の基準は？

- ・「幸せを比べる」と言うが、比べるためには「単位」が必要。例えば、「100幸せ」等を想像できるか。
- ・例えば、資産が1億円と100億円とでは、幸せ感が100倍違うか。そうではないであろう。
- ・「幸せの反対は不幸」のように両者が一直線上にあるのではなく、幸せは次元が異なるのではないか。

(5) 「幸せを比べる」とは？

- ・あんぱん1個がAさんとBさんに与える幸せを比較できるのは、両者の生活条件が同じときだけである。
- ・母親が死亡して家族3人で暮らす家族を考えると、その家族は、他のもっと過酷な環境の家族を想像、比較し、「もっと過酷な環境の家族よりは自分達がまし」とであると心の支えにすることができる。
- ・比べることはできない。比べるとすれば、「誰かと比べて生活はまし」とは言えるかもしれない。だが、幸せ自体はそのように比べるものではなく、気づくものである。
- ・比べる対象は幸せではなく、別の何かなのではないか。
- ・何か同じ事柄に対しても、条件が異なるAさんとBさんとは感じる幸せは異なるのではないか。一方で、社会的評価軸としての幸せは比較ができる。例えば、貧困や社会的な地位である。だが、主観から見た幸せは別である。
- ・客観的条件からは、主観から見た幸せは語れないと思う。金銭(=客観的条件)と主観から見た幸せ感とは完全に正比例はしない。主観から見た幸せ感が重要であり、それが正しいなら、比べられない。
- ・完全な数直線イメージでなく、幸せ・どちらでもない・不幸せの3段階評価なら比べられそうである。
- ・他者との比較は無理であるが、自分の中では比べられる。だが、麻薬による幸せ感と人を助けたときの幸せ感とは比べられない。また、時間経過、自分の成長、主観のゆらぎの影響を受けるため、難しい。
- ・厳密には幸せを比べることは難しいが、一方で比べてしまうことがあることがある。
- ・誰もが納得する幸せの基準は難しいのではないか。
- ・あまり幸せでない、不満な状況のときに、幸せを比べるのではないか。生活は苦しいがやりたいことはできている状況であるが、自分と他人を比べない。
- ・比べることを利用して、集団の中の立ち位置を確認している。例えば、貧困層だけの居住区では概して皆幸せであるが、それは周りに富裕層がいないからである。
- ・比べる判断は事実と推測の間で揺れる。主観の中で、その人にとって何が大事と思っているかで決まる。そのため、自身が充実していれば、比べる気持ちが起きない可能性がある。

(6) 再び「比べる」とは？

- ・比べていないか。幸せを比べることは、善悪ということではなく、正当な(=意味ある)ことなのか。
- ・色々比べる。勉強、体育、仕事、イケメン等と幅は広い。対象が広過ぎると比べることは無理である。
- ・便利な概念である。比べることが良いかどうかは別にして比べている。
- ・動物は生きることに真摯である。一方で、人間は感性発達に伴い、生存以外の余計なことを考える。

(7) 再び「幸せを比べる」とは？

- ・主観の中の幸せの場合、幸せ=善なのか。私達は幸せを無意識の裡に善と捉えて、ブラックボックス化して考えていないか。一方で、社会的評価軸としての幸せは異なる。
- ・昔から日本人では、自分よりも高い存在(例；神、幕府、天皇)が幸せを与えてくれた。現在は、自由なので自分自身が決めることになるが、これは厳しく辛い。
- ・社会的価値観から他人により決められた幸せ感のものさしを自己決定したと錯覚していないか。

3. まとめ：

- ・過去の同テーマの対話内容を踏まえたためか、前回とは異なる意見も出て、考えを深めることができたと思う。
- ・個人的には、「幸せ」を社会的評価軸から捉える考え方は面白いと思った。